



おいしさで・しあわせをつくる

ダイショー



おいしさで・しあわせをつくる

第56期

中間株主通信

2021.4.1～2021.9.30

株式会社ダイショー

証券コード：2816



代表取締役会長 CEO
松本 洋助



取締役社長 COO
阿部 孝博

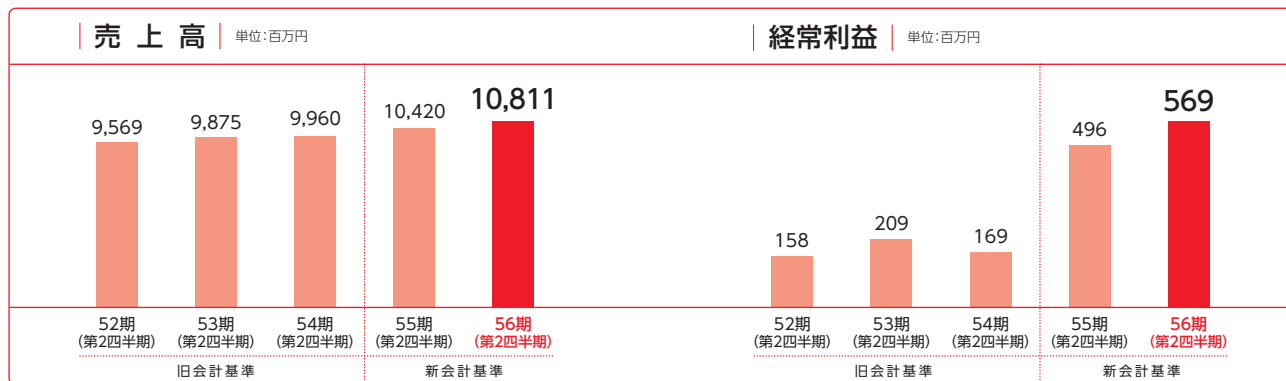
株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、当社第56期・第2四半期累計期間(2021年4月1日~2021年9月30日)の事業概況をご報告させていただくにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。
食品業界におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が長期化するなか、消費者の外出抑制マインドが継続する一方で、「内食」シフトを含む新たなライフスタイルの定着が進み、ネット販売市場の拡大などの新たな流通トレンドが加速しました。さらに、物流コストの高止まりや人手不足の影響、食の安全への希求のさらなる高まりなど、多くの課題が山積する経営環境が続きました。
こうした状況のもと、当社では2022年3月期までの中期経営計画の最終

年度を迎え、「主力製品の集中販売」「業務用製品のさらなる飛躍」「新製品の開発」および「次世代の組織づくり」という4つの基本方針に沿った重点施策に取り組みつつ、収益構造の改革と持続的成長の二律を鋭意追求しました。

以上の取り組みの結果、当第2四半期累計期間における売上高は、108億11百万円(前年同期比103.7%)となりました。利益につきましては、営業利益は5億65百万円(同115.6%)、経常利益は5億69百万円(同114.8%)、四半期純利益は3億79百万円(同115.8%)となりました。

なお、当期の中間配当につきましては、前年同期と同額の1株当たり9円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



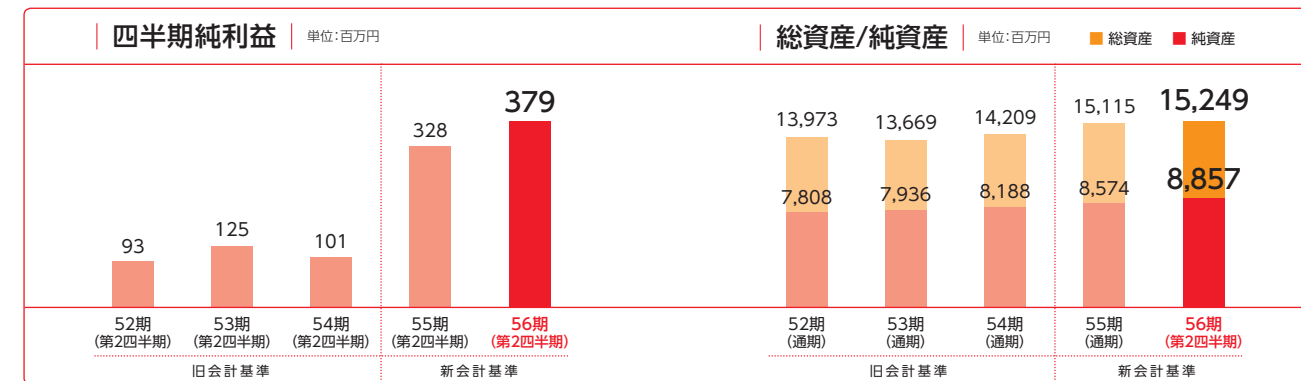
Q 第56期中間決算および上期の取り組みへの評価をお聞かせください。

液体調味料群においては、主力製品の販売に経営資源を集中させ、さらなる拡販に努めるなか、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外食機会を減らし家庭内で食事をする、いわゆる「巣ごもり」による内食志向が継続したものの、前年同期に急拡大した需要の反動減により、小売用製品は伸び悩みました。そうしたなか、ロングセラー製品『焼肉一番』の復刻版『焼肉一番 CLASSIC』が積極的な販売促進やWeb CMの展開が奏功し、売上を牽引しました。鍋スープ類では、通年製品化に向け「春鍋」「夏鍋」をキーワードに、季節に合わせたメニュー提案やSNSキャンペーンを展開しました。また『博多もつ鍋スープ』が発売30周年を迎えたことから、さらなる拡販およびブランド認知率の向上を目指し、有名タレントの起用によるWeb CMやテレビCM、SNSキャンペーンなどのプロモーションを積極展開しました。

新製品では、濃厚なとんこつと辛味噌の旨みで人気のラーメンを鍋スープで再現した『名店監修鍋スープ 一風堂博多とんこつ赤丸新味』などの「名店監修鍋スープ」シリーズが好調に発進しました。このほか、もつ鍋の本場である福岡の有名店監修によるもつ鍋スープ、野菜ソムリエの資格を有する当社社員の監修による「野菜ソムリエ監修」鍋スープなど、「監修」をキーワードとする創意豊かなアイテムを投入し、ラインアップの拡充を図りました。業務用製品では、新規開拓への取り組みを継続するなか、家庭内でお料理を楽しむ傾向が続いていることや、惣菜市場が回復した影響もあり、精肉向け・惣菜向けのソースやたれが伸長しました。

粉体調味料群においては、精肉向け・惣菜向けの業務用製品が好調に推移しました。

その他調味料群においては、『機能性表示食品 GABA配合スープはるさめ』を新たに市場投入しラインアップを充実させた即食製品が売上を伸ばし、業務用製品も好調に推移しました。



※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第56期第1四半期会計期間の期首から適用しており、第55期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。第54期以前の各数値については、旧会計基準等を適用したものです。

Q 下期の見通しおよび株主の皆様へのメッセージをお願いします。

新型コロナウイルス感染症は、第5波が収束に向かいつつあるとはいえ、第6波が警戒される冬に向け、なお予断を許しません。長期化するコロナ禍との共存環境下における「新しいライフスタイル」の定着により、「内食」へのシフトやネット販売市場のさらなる拡大などを含む食品市場の変化が今後も加速していくものと予想されます。

加えて、お客様の生活防衛意識や節約志向、食の安全への要求の高まり、少子高齢化による国内市場の収縮、気候変動にともなう食品需要の変化、食品ロスなどの環境・社会問題、お客様の価値観の多様化など、数多くの課題への対応を求められています。

当社は、こうした大きな変化の潮流を見据え、最終年度を迎えている中期経営計画の主目標「主力製品の集中販売」「業務用製品のさらなる飛躍」「新製品の開発」「次世代の組織づくり」の完遂に引き続き注力してまいります。

「主力製品の集中販売」では、気候変動により暖冬の頻度が増し、主力製品がピークシーズンの秋冬に伸び悩むということ数年の傾向を踏まえ、発売30周年を迎えた『博多もつ鍋スープ』に代表される「鍋スープ」群の通年商品化への取り組みを進めます。また、「業務用調味料」市場の開拓に向け、スーパー、ドラッグストア、コンビニエンスストアなど販売チャネルごとの専任部署によるメニュー開発・提案を強化しラインアップの拡充に努めます。さらには、順調に推移している海外販売体制を一層強化し、売上の拡大に努めます。

現在、当社の生産設備は、鍋スープ群に代表される定番商品や新製品の販売好調により、フル稼働が続いています。こうした足もとの好調な業績を、持続的な成長につなげる好機と捉え、2022年3月の稼働を目指し九州工場に大規模な排水処理施設の建設を進めています。すでに用地を取得済みの関東工場の拡張計画とあわせ、ハード面での成長投資を着実に進めてまいります。

同時に、ソフト面での投資も強化します。「次世代の組織づくり」につきましては、上期において経営企画室の体制を刷新しました。これにより、「生産性」「認知度・満足度・生産性の向上」「商物分離」などの喫緊の経営課題の解決と、中長期的には事業分野の「選択と集中」、それにともなう新たな主力商品の開発、販売チャネル戦略の立案など事業再編や機会創出の機能を強化してまいります。また、コロナ禍によるテレワークやリモート会議といった営業活動の制約下においても予想を上回る業績の伸びを達成できた経験を踏まえ、情報のデジタル化やシステム環境改善に向けた投資を強化します。さらには、従前からの課題である食品ロスの削減に向け、製・販連携強化による効率的な在庫運用と廃棄ロスの削減に取り組んでまいります。

第56期通期の業績見通しにつきましては、売上高は222億円、営業利益9億円、経常利益9億円、当期純利益5億70百万円を予想しております。

今後もダイショーの経営理念である「おいしさで・しあわせをつくる」を価値創造の基本としつつ、当社の強みである開発力と提案力を研ぎ澄まし、お客様・お取引先各位との信頼関係を大切にしながら全社一丸となり、事業のさらなる成長と業務の一層の効率化に努めてまいります。

LONG
SELLER
★★★
ロングセラー
物語



『博多もつ鍋スープ』

発売当初の味をそのままに、今年で30年

1990年前後の時代は、鍋用の専用スープという商品がほぼ市場に存在せず、鍋物は家庭で味付けをする、またはポン酢などをつけて食べるというのが当たり前の時代でした。そのようななか、創業者・金澤俊輔が外食店の鍋料理が非常においしかったことから、「このような美味しいスープができれば家庭で喜んでもらえるはずだ」と考え、商品開発を進めることになったのが鍋スープ開発の始まりです。最初に鍋スープを商品化したのが、1989年。そしてその2年後、当時居酒屋などで普通に出てくる庶民的なメニューであった、もつ鍋用のスープ（しょうゆ味、みそ味）を商品化しました。

開発当時の味をそのままに、今年で発売30周年を迎えた当社の看板商品で、もつ鍋スープにおいては市場で断トツの売上を継続しております。



だからロングラン!

ベースはしっかりとした味付けですが、にんにくは配合しておらず、唐辛子もみそ味にほんのり効かせている程度。お好みで調節できるところは、ご家庭のお好みで調節してもらおうほうがよい。そのほうが、幅広いご家庭で幅広いシーンでおいしく召し上がりいただける。そう考えて商品化されました。

そのこだわりは今もしっかりと引き継がれています。



SDGsとは

SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称です。2015年の国連総会にて、150を超える国連加盟国参加のもと17項目の目標が採択されました。貧困・飢餓・健康・教育・環境・エネルギー・気候変動など地球規模の課題解決に向けた目標が定められています。国際社会全体でこの目標を達成するために、企業には、事業を通じてこれらの課題を解決することが期待されています。ダイショーは社会の変化を捉え、食を通じて社会的課題を解決することで成長してきました。それはSDGsの考えと一致しています。私たちは今後、世の中の人々のために、さらに数々の社会的課題を解決していかなければならないと考えています。

当社の基本的なSDGs活動

当社は持続可能な社会の構築に向け、以下の取り組みを行っております。

社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ●食品を通じた、社会への貢献とフードロスの削減 ●子供向けの食育活動 など 	製造設備面	<ul style="list-style-type: none"> ●工場の省エネとCO₂の削減
環境に配慮した製造活動	<ul style="list-style-type: none"> ●環境に配慮した包材の採用 ●廃油、排水汚泥の再利用 など 	働く環境面での改善活動	<ul style="list-style-type: none"> ●社員への働き方改革への仕組みづくりや支援

この他にも様々な活動を行っております。

今後とも、SDGsが目指す持続可能な社会の構築に向け、事業を通じた貢献に努めてまいります。



国連総会で掲げた
2030年までに達成すべき
17項目の目標



SDGs 環境への取り組み

関東工場のボイラー設備の燃料を重油からLNGへ転換



2020年12月、関東工場(茨城県小美玉市)のボイラー設備を更新し、あわせて燃料を重油からLNGに転換いたしました。これにより、燃料コストの低減、省エネルギー化とともに工場のCO₂排出量削減に大きく貢献いたしました。



SDGs 社内での取り組み

健康経営への取り組みを推進



私たちは社員の「心と体の健康」が重要な経営課題のひとつと認識し、2021年6月に「健康経営宣言」を行いました。



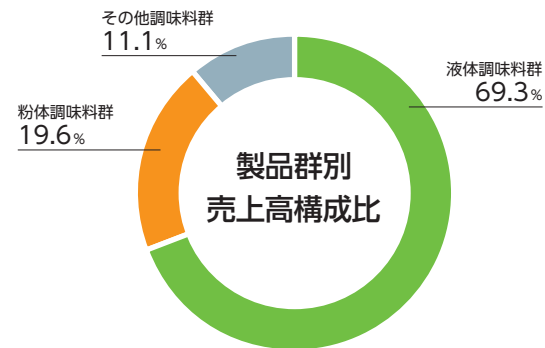
健康経営を推進している総務人事部のメンバー

当社は「おいしさでしあわせをつくる」を企業理念として、「豊かな食文化」の創造を目指し、「安心・安全」を第一義に企業活動を行っています。

会社の成長を支える社員とその家族の心身の健康を重要な経営資源のひとつとして捉え、健康維持・増進活動を組織的に推進しています。さらに当社に関わる全ての人々に健康としあわせを届け、豊かな社会生活と経済の発展に貢献する会社を目指します。

当社の喫緊の課題は、健康診断結果の有所見者数が平均より多いということです。自社製品がおいしくてつつい食べ過ぎてしまうこともありますが、食生活改善に向けたアプリの提供や特定保健指導の実施を徹底しています。

このほか、産業医による健康教育を行い、毎回対象者にアンケートを取り、参加率と理解度を確認しています。その回答では「睡眠の質が仕事と深く関係することがわかりとてもためになった」、「働きやすい職場環境をつくりたい」など、たくさんの意見が寄せられています。また全事業所でのラジオ体操実施や、メンタルヘルス教育など、社員一人ひとりが心身の健康保持・増進に自主的に取り組めるよう、健康づくりを支援しています。



売上高	108億11百万円	前年同期比	3.7%増
営業利益	5億65百万円	前年同期比	15.6%増
経常利益	5億69百万円	前年同期比	14.8%増
四半期純利益	3億79百万円	前年同期比	15.8%増

品目別売上状況

液体調味料群

たれ

小売用ではロングセラー製品『焼肉一番』の復刻版『焼肉一番 CLA SSIC』が積極的なプロモーションやWebCMの展開等により、売上を牽引いたしました。
業務用では新規開拓への取り組みを継続するなか、家庭内調理機会の高まりの継続と惣菜市場の回復の影響もあり、精肉向け・惣菜向け製品が伸長しました。

スープ

前年に続き、鍋スープの通年製品化に注力しました。「春鍋」「夏鍋」をテーマに、定番製品を用いた季節に合わせた鍋メニュー提案やSNSキャンペーンを実施しました。主力の『博多もつ鍋スープ』も発売30周年に合わせ積極的なプロモーションを展開しました。新製品では、人気店のラーメンを鍋スープで再現した「名店監修鍋スープ」シリーズが好調な滑り出しとなりました。

ソース

小売用では、主力の『ローストビーフソース』や新製品『ポークジンジャーの素』などが売上を牽引し好調に推移しました。
業務用では精肉向け・惣菜向け製品の伸長もあり、大きく売上を伸ばしました。

粉体調味料群

小売用は、前年度の家庭内需要急拡大の反動減の影響で、全体で苦戦いたしました。
業務用は惣菜向け製品の伸長もあり、大きく売上を伸ばしました。

その他調味料群

小売用は、前年度の家庭内需要急拡大の反動減の影響で全体で苦戦いたしました。新製品「機能性表示食品 GABA配合スープはるさめ」を投入した「スープはるさめ」類など、即食製品は売上を伸ばしました。
業務用製品は好調に推移いたしました。

四半期貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末 2021年3月31日現在	当第2四半期末 2021年9月30日現在
資産の部		
流動資産	6,839	7,056
固定資産	8,275	8,192
有形固定資産	6,908	6,847
無形固定資産	147	129
投資その他の資産	1,219	1,215
資産合計	15,115	15,249
負債の部		
流動負債	4,605	4,507
固定負債	1,935	1,884
負債合計	6,540	6,391
純資産の部		
株主資本	8,490	8,783
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	7,354	7,647
自己株式	△ 114	△ 114
評価・換算差額等	84	74
純資産合計	8,574	8,857
負債純資産合計	15,115	15,249

- 流動比率は156.6%と前期末より8.0%向上し、返済能力がアップしております。
- 有形固定資産の減少は減価償却によるものであります。
- 負債の減少は主に短期金銭債務の減少によるものであります。
- 自己資本比率は58.1%と前期末より1.4ポイント向上し、さらに充実しております。

四半期損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期累計 自 2020年4月 1日 至 2020年9月30日	当第2四半期累計 自 2021年4月 1日 至 2021年9月30日
売上高	10,420	10,811
売上原価	6,093	6,286
売上総利益	4,327	4,524
販売費及び一般管理費	3,838	3,958
営業利益	489	565
営業外収益	14	10
営業外費用	7	6
経常利益	496	569
特別損失	0	0
税引前四半期純利益	495	568
法人税等	167	188
四半期純利益	328	379

- 売上高は、前年同期を3.7%上回り9期連続の増収となりました。
- 営業利益は増収のなかコストの効率化に努め、増益となりました。
- 経常利益及び四半期純利益も営業利益と同様、増益となりました。

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期会計期間の期首から適用しており、2021年3月期第2四半期に係る各数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

… 精肉
 … 鮮魚
 … 青果
 … 日記
 … 食品

 [180g] 鉄板肉肉鍋の素 甘辛しょうゆ味	 [500g] お肉ソムリエ監修 バクテー風スパアリブ煮込みスープ	 [750g] やみつき豚鍋スープ 生姜とんこつみそ味	 [リニューアル] [750g] 博多水炊きスープ	 [リニューアル] [750g] 鶏南蛮鍋スープ	 [リニューアル] [75g] 肉BarDish ローストビーフ用セット
 [166.4g] すき焼き風博多もつ鍋の素	 [150g (75g×2袋)] 北海道ぎょれん監修 鮮魚亭 ちゃんちゃん焼のたれ	 [750g] 北海道ぎょれん監修 鮮魚亭 チーズ仕立て 石狩鍋スープ	 [100g (25g×4袋)] シーフードソムリエ監修 鮮魚亭 うに醤油	 [リニューアル] [750g] 鮮魚亭 塩ちゃんこ鍋スープ	 [リニューアル] [750g] 鮮魚亭 かにすきスープ
 [リニューアル] [120g (60g×2袋)] シーフードソムリエ監修 鮮魚亭 ぶりの照焼のたれ	 [リニューアル] [300g] シーフードソムリエ監修 鮮魚亭 ぶり大根のつゆ	 [750g] CoCo壱番屋監修 スープカレー用スープ	 [750g] 野菜ソムリエ 青野菜監修 野菜をいっぱい食べる鍋 焼あごだし鍋スープ	 [750g] 野菜ソムリエ 青野菜監修 野菜をいっぱい食べる鍋 鶏だし醤油鍋スープ	 [750g] 野菜ソムリエ 青野菜監修 野菜をいっぱい食べる鍋 焦がし風味噌鍋スープ
 [750g] 野菜ソムリエ 青野菜監修 野菜をいっぱい食べる鍋 とんこつ醤油鍋スープ	 [750g] 野菜をいっぱい食べる鍋 キャベツ鍋スープ	 [リニューアル] [750g] 野菜をいっぱい食べる鍋 もやし担々鍋スープ	 [90g] ぱぱっと逸品 かぼちゃ1/4で2品 鶏かぼちゃ煮のたれ& かぼちゃスープ用ベース	 [110g] ぱぱっと逸品 白菜1/4で2品 豚バラ白菜炒めのたれ& サラダキムチのたれ	 [250g] CoCo壱番屋監修 カレーうどんつゆ
 [700g] 名店監修鍋スープ 一風堂博多とんこつ赤丸新味	 [700g] 名店監修鍋スープ 麵屋武蔵だし醤油味	 [100g (4食分)] オートミールde リゾット トマトコンソメ&チーズポタージュ			

会社概要

社名 株式会社ダイショー (英訳名) DAISHO CO., LTD.
本社 東京本社 〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目17-3
 TEL: 03-3626-9321 FAX: 03-3626-9393
 福岡本社 〒812-0064 福岡市東区松田1丁目11-17
 TEL: 092-611-9321 FAX: 092-611-8288

ホームページアドレス http://www.daisho.co.jp
設立 1966年12月19日
資本金 870百万円
事業内容 たれ、スープ、粉末調味料など製造販売
従業員数 719名

役員

取締役	代表取締役会長CEO	松本 洋助
	取締役社長COO	阿部 孝博
	専務取締役	中西 昌至
	専務取締役	松本 俊一
	常務取締役	坂田 恵補
	取締役	古田 龍輔
	社外取締役	本郷 伸介
監査役	常勤監査役	牛塚 良信
	社外監査役	成清 一郎
	社外監査役	馬場 正宏

株主優待ご案内



株式の状況

発行可能株式総数 …………… 24,000,000株
発行済株式の総数 …………… 9,868,800株 (自己株式216,088株を含む)
株主数 …………… 19,051名
大株主

株主名	持株数(単位:千株)	持株比率(単位:%)
有限会社山田興産	2,442	24.75
一般財団法人金澤記念育英財団	1,488	15.07
松本賢子	853	8.64
ダイショー従業員持株会	273	2.77
松本洋助	206	2.08
株式会社西日本シティ銀行	180	1.82
株式会社福岡銀行	114	1.16

(注)当社は自己株式216,088株を所有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

株式分布状況



株主優待制度の内容

- | | |
|---|--|
| <p>1 対象となる株主様</p> 毎年3月31日、9月30日現在の株主名簿に記載された 100株以上 ご所有の株主の皆様を対象といたします。 | <p>2 贈呈品 自社製品詰め合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1,000円相当…100株以上 ● 2,000円相当…500株以上 ● 3,000円相当…1,000株以上 ● 6,000円相当…5,000株以上 |
|---|--|

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	毎年6月開催	電話照会先	TEL 0120-782-031(フリーダイヤル)
剰余金の配当基準日	期末配当…3月31日 中間配当…9月30日 その他必要がある場合は、 あらかじめ公告して定めます。	公告方法	当社のホームページに掲載。 http://www.daisho.co.jp ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない事由が生じた場合には、 日本経済新聞に掲載して行います。
単元株式数	100株		
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社	上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第二部 (証券コード 2816)

●住所変更、単元未満株式の買い取りのお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2816

いいかぶ

検索



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。
QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」(1809)

MAIL: info@e-kabunushi.com



〒130-0014 東京都墨田区亀沢1丁目17-3
TEL:03-3626-9321(代)
<http://www.daisho.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



PROJECT-
With the Earth
この冊子の印刷・製本に係るCO₂は
PROJECT- With the Earth を
通じてオフセット削減しています。

